

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成27年10月 6日 (火) 6校時
児 童 男子 8名 女子10名 計18名
指導者 吉田 理紗

- 1 単元名 とうじょうじんぶつと自分をくらべて読み、かんそうを書こう
教材名 「わたしはおねえさん」(光村図書)
補助教材 「すみれちゃん」(石井 睦美 作) 他

【付けたい力】

- ◎ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめる力(読むこと オ)
- 文章の中の大事な言葉や文を書き抜く力(読むこと エ)

【単元を貫く言語活動】

《ここがにている！ここがちがう！
中心じんぶつとぼく・わたし》
お気に入りの物語の中心人物と自分とを比べて感想を書く。

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「お気に入りの本の中心人物と自分とを比べて感想を書く。」を位置付けた。この言語活動は、「読むこと」の言語活動例「エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと」を具体化したものである。

ここで取り上げる「お気に入りの本の中心人物と自分を比べて感想を書く。」は、お気に入りの本の感想を友達と家の人に紹介するために行うものである。要素は、①中心人物の行動や会話文の中で心に残ったところ(書き抜く)、②自分と比べて、である。様式は、感想カードとする。

中心人物と自分を比べて感想を書くためには、中心人物の行動に着目し、叙述から場面の様子、行動や心情の変化などを理解するとともに、自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文を意識して、読んだ内容を自分の知識や経験、読書体験等と結び付けることが必要となる。したがって、「中心人物と自分を比べて感想を書くこと。」は、本単元でねらう「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめること」(読む オ)「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」(読む エ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えられる。

3 単元について

(1) 児童について

本学年の既習単元「ふきのとう」「スイミー」では、場面の様子について、登場人物の行動や会話を基に想像を広げて読むこと、言葉のまとまりやリズムなどに気を付けて音読すること、登場人物の行動や会話文に着目し、自分の経験と結び付けて、自分の思いや考えをまとめることを学習した。言語活動としては、音読発表会、感想を書くことを経験し、言葉のまとまりや意味を考えながら音読をしたり、登場人物の気持ちや場面の様子を想像したりすることができるようになってきた。

しかし、書いた感想を読むと、一場面をとらえた浅い内容である児童もいた。また、文章の

内容と自分の経験とを比べてまとめたりする学習経験はまだ十分とは言えない。そこで、感想の根拠となる心に残った文を書き抜き、自分の経験を想起しながら、登場人物と自分とを比べて読む力を伸ばしていきたいと考える。

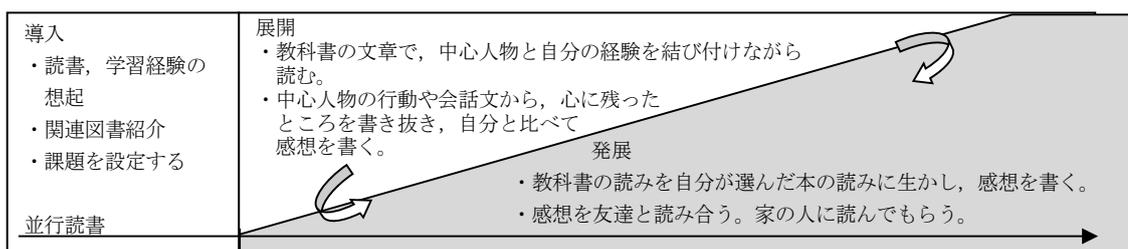
(2) 単元構成及び教材について

① 教材について

「わたしはおねえさん」は、小学二年生の「すみれちゃん」が中心人物の物語である。二年生に進級した素直な喜びや誇らしい気持ち、お姉さんとしての心の葛藤や気持ちの変化について、中心人物に寄り添って描かれており、「すみれちゃん」に自分を重ねて想像を広げられると考える。「すみれちゃん」が妹との関わりの中で出会う事件や心の葛藤に親近感をもち、共感したり、「自分だったら」と自分の経験と重ね合わせて読んだりすることのできる教材である。

補助教材として、中心人物が「すみれちゃん」の同じシリーズ「すみれちゃん」「すみれちゃんは一年生」「すみれちゃんのあついなつ」、その他、児童と同年代の中心人物が登場する物語を使用する。

② 単元構成について



第一次では、単元名や学習計画、言語活動のモデルから学習の見通しをもたせる。第二次では、「わたしはおねえさん」を読み、感想を書くためにすみれちゃんの行動や会話に着目して心に残ったところを選び出し、自分と比べて感想を書く。第三次では、第二次で学習した感想の書き方を生かし、お気に入りの本の中心人物と自分を比べて感想を書く。書いた感想は友達と交流したり、家の人に読んでもらったりする。

(3) 指導にあたって

① 主体的な学習を展開するために

第一次の第1時では、これまでの学習では、感想にどのようなことを書いてきたか、よくできたところや難しかったところを確認する。そして、さらに良い感想を書くためには中心人物と自分とを比べて考えたこと詳しく書くことができるとよいことを確かめる。そこで、「とうじょうじんぶつと自分をくらべてかんそうを書こう」という単元名を設定する。ゴールとなる言語活動のイメージをもたせるためにモデル文を提示し、要素を分析する。また、学級の友達や家の人に読んでもらうために感想を書くという目的意識をもたせる。

さらに、単位時間の活動と単元のゴールがどのように結び付いているのかを学習計画を使って意識させる。並行読書材はここで紹介し、いくつかの話を読み聞かせていくことで興味をもたせたい。

第二次で自分と比べて感想を書く際には、教師が書いた感想をモデルとして紹介し、意欲的に学習に取り組めるようにする。

② 確かな読みを保障するために

「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめる」ために、以下の手立てを考えた。

i) 心に残った文を書き抜く。

ii) 一年生との交流など、年下の子どもと接した時の経験を想起させる。

iii) 書き方のパターンを幾つか例示する。

物語を読みながら、中心人物の行動や会話文で心に残ったところには付箋を貼っていく。自分と比べて同じ、自分と似ていると感じたところ、自分とちがうと感じたところにそれぞれ色の違う付箋を貼る。その中から一番心に残ったところを書き抜く。

この学習では、児童が実際に経験したこと（自分も）の他に、実際には経験していないが想像したこと（自分だったら）という書き方も認めることとする。

③ 交流を意欲的に進めるために

教材文を読む際には、個々の考えを基に、それぞれの考えを全体で話し合うことによって、自分の思いや考えをまとめたり広げたりできるようにする。第5時では、友達に残ったところはどこか分かるように拡大した教材文に付箋を貼らせ、選んだところとその理由を交流する。なかなか一つが選べない児童は考えをまとめるために、考えがまとまっている児童に、同じ行動や会話文を選んだ友達と理由を比べさせたり、違うところを選んだ友達と感想を交流させたりして、全員が目的をもって交流できるようにする。

第7時と第10時はそれぞれ完成した感想カードを読み合う。交流の視点は、中心人物と比べて感想を書くことができているか、自分と比べた感想を読んでどう思ったか、とする。

4 単元の目標

- 自分と友達の思いや感想を分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしようとする。

【関心・意欲・態度】

- ◎ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想を書くことができる。 【読む オ】

- 登場人物の行動や会話文から心に残ったところを選び、書き抜くことができる。 【読む エ】

- 文章の中における主語と述語の関係に注意して文や文章を読んだり、主述が照応するよう表現したりすることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・自分と友達の思いや感想を分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしようとしている。	・心に残った登場人物の行動や気持ちと自分の経験とを結び付けて、感想を書いている。(オ) ・登場人物の行動や会話文から心に残ったところを選び、書き抜いている。(エ)	・文章の中における主語と述語の関係に注意して文や文章を読んだり、主述を照応させて表現したりしている。(イ (カ))

6 単元の指導と評価計画 (全 10 時間)

次	時	学 習 活 動	評 価
第一 次	1	○ 教師が作成した感想カードのモデルや単元名から、これからの学習の見通しをもつ。	読 単元名や言語活動のモデルから、これからの学習の見通しをもっている。 [ノート, 発言] 読 感想の要素をとらえている。 [ノート]
	2	○ 「わたしはおねえさん」の読み聞かせを聞き、感想を話す。 ○ これまでの学習を想起しながら、感想を書く時に使えるような言葉を確かめる。	関 読み聞かせの感想を進んで話している。 [発言] 関 感想を書くときに使えるような言葉を探したり、考えたりしている。 [観察]
第二 次	3	○ 「わたしはおねえさん」を読み、設定やあらすじをとらえる。	読 登場人物の行動や会話文から、物語の設定やあらすじをとらえている。 [発言・ノート]
	4	○ すみれちゃんの行動から、その理由を考える。	読 すみれちゃんの行動に着目し、すみれちゃんの人物像や変化をとらえている。 [発言・ノート] 言 主述の関係を意識して読んでいる。 [発言]
	5	○ お気に入りの本で感想を書くために、すみれちゃんの行動や会話文で心に残ったところを選び、交流する。	読 すみれちゃんの行動や会話文から、心に残ったところを選び、話している。 [観察] 読 心に残ったところを書き抜いている。 [学習シート]
	6 本 時	○ お気に入りの本で感想を書くために、心に残ったところについて、自分と比べて感想を書く。	読 すみれちゃんの行動や気持ちと自分の経験を結び付けて感想をまとめている。 [感想カード] 言 主述の关系到注意し、主述を照応させて表現している。 [感想カード]
	7	○ 感想を読み合い、友達と交流する。	関 書いた感想を読み、感じたことや考えたことを伝え合っている。 [観察]
第三 次	8	○ お気に入りの本の中心人物の行動や会話文から、心に残ったところを選び、交流する。	読 中心人物の行動や会話文から、心に残ったところを選び、話している。 [観察] 読 心に残ったところを書き抜いている。 [学習シート]
	9	○ お気に入りの本の心に残ったところについて、自分と比べて感想を書く。	読 中心人物と自分を比べて感想を書いている。 [感想カード] 言 主述の关系到注意し、主述を照応させて表現している。 [感想カード]
	10	○ 感想を友達と交流する。 ○ 学習を通してどのような力がついたか振り返る。	関 書いた感想を読み、感じたことや考えたことを伝え合っている。 [観察] 読 観点に沿って、学習の振り返りを書いている。 [学習シート]

7 本時の指導

(1) 目標

心に残ったすみれちゃんの行動や会話文について、自分と比べて感想を書くことができる。

(2) 展開

段階	学習内容と活動 ◇発問 ・予想される児童の反応	○支援 ・留意事項 ☆評価
つかむ 5分	<p>1 単元のねらいを確認するとともに、前時までの学習内容を想起する。</p> <p>◇ 前の時間に選んだ心に残ったところとその理由を発表しましょう。</p> <p>・すみれちゃんが、かりんちゃんの絵をけしかけて、でもけすのをやめたところが心に残りました。わけは、すみれちゃんがやさしいおねえさんだと思ったからです。</p> <p>2 本時の学習課題と学習の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">すみれちゃんと自分をくらべて、かんそうを書こう。</div>	<p>・ 単元名や学習計画を基に、本時と単元のゴールがどうつながっているのかを確認する。</p> <p>・ 本時の学習の流れを説明し、見通しをもたせる。</p>
ふかめる 30分	<p>3 感想のモデルから、書き方を知る。</p> <p>◇ 先生が書いた感想をいくつか紹介します。</p> <p>◇ 先生は、〇〇と自分を比べて、同じだと思ったのでしょうか。それとも、違うと思ったのでしょうか。</p> <p>・同じだと思います。「わたしもこんなことがあった」と書いてあるからです。</p> <p>◇ では、これはどうでしょう。</p> <p>・違うと思います。「わたしだったらこうする」と書いてあるからです。</p>	<p>・ 過去の経験を想起して書く方法を確認する。</p> <p>・ 実際には経験していなくても、仮想したり、誰かの経験から想像を広げて書いたりすることで自分と比べられることを押さえる。</p> <p>・ 「自分だったらこうする（こう思う、こう言う）」「自分もきっとこうする」など書き方を例示</p>

	<p>4 心に残ったところについて感想を書く。</p> <p>◇ すみれちゃんと自分と比べて、感想を書きましょう。</p> <p>5 友達と交流して、自分の考えをまとめる。</p> <p>◇ 自分と比べて感想を書くことができましたか。友達と交流して、自分の考えをまとめましょう。</p> <p>◇ 自分と比べた感想をどのように書きましたか。発表しましょう。</p> <p>・わたしだったら、落書きをされたら怒ってかりんちゃんを泣かせてしまうかもしれません。家で弟にいたずらをされたときに大きな声で怒ってしまいました。これからはすみれちゃんみたいにおねえさんらしくしたいです。</p>	<p>し、カードに書くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早く書き終わった児童には、感想のモデルを基に、更に文を付け加えさせる。 ○ なかなか書き始められない児童には、書き出しの書いてあるワークシートを用意する。 ○ 考えがまとまらない児童は、友達の考えを聞いてから書いてもよいこととする。
<p>まとめる 10分</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>◇ 自分と比べて感想を書くときに大切なことは何でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分もこんなことがあった」を書く。 ・ 「自分だったら」と考えて書く。 <p>◇ 今日の学習の振り返りを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を、板書で振り返る。 ・ 振り返りシートに短い文で振り返らせる。 ☆ 自分と比べて感想を書くことができたか。 [感想カード] ☆ 主述の関係に気を付けて、主述を照応させて表現することができたか。 [感想カード]

7	<p>次時の学習を確かめる。</p> <p>◇ 次の時間は、今日書いた感想をみんなで読み合いましょう。</p>
---	---

(3) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>自分とくらべたかんそうの書きかた</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>モデル文②</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったらこうする ・自分だったらこう思う ・自分だったらこう言う ・自分もきつこうする <p>そうぞうしてくらべる</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>モデル文①</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も同じことがあった <p>自分のけいげんとくらべる</p> </div>	<p>十月六日（火）</p> <p>とうじょうじんぶつと自分をくらべて読み、かんそうを書こう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>⑦ すみれちゃんと自分をくらべてかんそうを書こう。</p> </div>
---	--	---	---